

# 第十二回兵法講座 ― 楠流兵法と武士道精神 平成二十五年十月十三日（於 靖国会館）

## 太平記秘伝理尽鈔卷第七 ちはやのじやういくさ 千劍破城軍の事

### 千早城の戦い（概要）

「太平記」には、どう書かれているか

千劍破城軍の事、諸国七道の軍勢百万騎の事。

千早城を攻めた寄手の実数は？

楠木が千早の城を拵（こしら）える事。

正成、宮の上洛要請があれど、鎌倉潜入の忍びの通報により千早を固める（戦略Ⅱ守勢・持久作戦）

五徳相応の千早城（戦術・戦法Ⅱ千早を選んだ五つの理由）。鳩毒のこと

城壁の築き方／矢ざま。内八文字・外八文字／堀内外の樹木

金鉄（精鋭）の兵八百六十余人

食糧の備蓄／矢の用意

賀名生の奥、観心寺に妻子と別働隊を置く

書に、寄手百万騎、此の勢にも恐れず、千騎にたらぬ小勢にて防ぎ戦ふ楠が心の中こそ不敵なれ、と謂し事。

道・筋を知らば何事にも驚かず

正成、籠城のめどを二年間とする

戦を心に懸ける品々

①軍書を学ぶ ②狩・鷹野での訓練 ③郎従に対する態度 ④歩行訓練 ⑤軍忠。軍の規律 ⑥尽度廻り

寄手、城を思ひ侮つて一兩日の間、城を攻めし事。

城を侮つた寄手の攻撃

城の落つべき条件

※笠置の即日攻め（巻三 笠置軍事付陶山・小見山夜討の事）

城の中の兵共大石を投げ懸けし事。

大石・大木の用意

※軍法の必要性（巻三 笠置軍事付陶山・小見山夜討の事）

寄手暫く軍を止めて己が陣々を構へける事。

攻城の手順の基本

※将が備えるべき勇（巻二 南都・北嶺行幸事）Ⅱ地の利・平・鈍／人の和／勢の多少

※陣の配置／城攻めの三つの不可（巻三 笠置軍事付陶山・小見山夜討の事）

赤坂を攻めし将、「纔かなる山の頂きに用水有べきとも、をぼへ候はず」と云るるに依りて、名越越前守を

大将として、溪水のほとりに陣を取らせし事。

千早城の水事情

赤坂と千早を同一視した寄手の誤り

一人の高名を支える諸兵。上は下の忠節を思え

※主将の法「それ主将の法は、務めて英雄の心を取り、有功を賞禄し、志を衆に通ず。」（『三略』上略）

見張り番のあるべき布陣

執るべき対策を怠った将の恥

楠夜討の事。

正成、名越の陣に忍びを入れ、状況判断

正成、三度の太鼓により軍勢指揮

次の日城の大手に三本唐笠の紋を付たる旗・幕を立て笑ひし事。

正成、論功行賞／北辻、なぜ名越の旗・幕を掲げないのかと問う。正成、翌日からかうべしと説く

楠が勢、名越が旗・幕を城の追手に立て笑いたるを聞て城を攻し事。

挑発に乗った名越は短慮

腹を立てるのは愚人／短慮に失多し

長崎四郎左衛門、「此城は力攻めに成難し。食攻めにせよ」との下知せし事。

食攻め（＝兵糧攻め）のあるべき手順

関東七倍、関西三増倍／寄手は無才無謀

武家の遊びのあり様。和歌と弓馬

正成の情報収集策／白紙白文の秘策

観心寺の野伏、寄手を悩ます

正成、忍びの兵への褒章

#### 【新田義貞との問答】

義貞の問いに答え、正成、籠城の資材準備の次第を説く

正成主従の生活ぶり／正成、下部・中間・侍の身分向上策を語る

#### 【足利高氏・赤松円心との問答】

円心、寄手の無策をいぶかる

正成、夜討ちへの万全な備えを説く／正成自身が巡回し、夜番の兵をねぎらう／門の出入りの警戒方法

敵に倍する褒賞を与え、返り忠を防ぐ／尊氏、早瀬吉太に返り忠をもちかけ失敗

正成、木沢・日井に、敵将金沢と恩地の取り持ちをさせる／恩地、正成を裏切るふりをする／寄手の求め

により、長谷平九郎人質となる／金沢、正成襲撃勢を恩地のもとに派遣／恩地謀って襲撃勢を討ちとる／

混乱の中、人質の長谷脱出／襲撃成功と誤解して集まった寄手を退ける

藁にて人形を作って寄せ手を討し事。

藁人形の策に落ちた寄手に軍法なし

#### 正成の軍法六箇条

①下知（命令）に服従せよ ②火災への対応 ③陣中での娯楽禁止 ④礼節を守れ ⑤不要の陣内移動を厳禁

敵の動きに翻弄されるな

則祐、正成と藁人形の策の是非を議論

#### ○余所に耳（のみ）の歌の事。

太平記にある『余所にのみ 見てややみなん葛城の たかまの山の峰の楠』は、楠木七郎（正季）の作

#### ○名越伯父（名越遠江入道）・甥（名越兵庫助）突き違へし事。

名越伯父・甥の死は、ともに非多し

高時、飛脚を上げて、「戦を止めて日を送る事、然るべからず」と下知せし事。

高時、ただ攻めよと下知したのは闇主

#### 梯（かけはし）の事。

正成、敵の梯に備え、撃退

#### 野伏、路・辻を差し塞ぐ事。

野伏、落人・兵糧を襲うも、寄手放置